【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成17年1月27日(2005.1.27)

【公表番号】特表2004-501611(P2004-501611A)
【公表日】平成16年1月22日(2004.1.22)
【年通号数】公開・登録公報2004-003
【出願番号】特願2001-569326(P2001-569326)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ１２Ｎ　 9/16
　Ｃ１２Ｎ　 9/22
　Ｃ１２Ｎ　15/09
　Ｃ１２Ｑ　 1/42
　Ｃ１２Ｑ　 1/44
【ＦＩ】
　Ｃ１２Ｎ　 9/16　　Ｂ
　Ｃ１２Ｎ　 9/22
　Ｃ１２Ｑ　 1/42
　Ｃ１２Ｑ　 1/44
　Ｃ１２Ｎ　15/00　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成14年11月20日(2002.11.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ヌクレアーゼとホスファターゼを含有する組成物であって、増幅されたデオキシリボ核酸が実質的に含まれず、該ヌクレアーゼが組成物１マイクロリットル当たり少なくとも０．０１ユニットのヌクレアーゼ濃度で該組成物中に存在し、上記ホスファターゼが、該組成物を－２０℃で２４時間保存したときにその機能活性の少なくとも５０％を保持する、組成物。
【請求項２】
有効量のエビアルカリホスファターゼを含有する、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
有効量のエキソヌクレアーゼＩを含有する、請求項１又は２に記載の組成物。
【請求項４】
有効量のアルカリホスファターゼを含有する、請求項１ないし３の何れか１項に記載の組成物。
【請求項５】
有効量の緩衝剤を更に含有する、請求項１ないし４の何れか１項に記載の組成物。
【請求項６】
７～９のｐＨを有する、請求項１ないし５の何れか１項に記載の組成物。
【請求項７】
有効量の還元剤を更に含有する、請求項１ないし６の何れか１項に記載の組成物。
【請求項８】
有効量のキレート剤を更に含有する、請求項１ないし７の何れか１項に記載の組成物。

【請求項９】
グリセロール、エチレングリコール及びグリシンからなる群から選択される、少なくとも２０容量パーセントの安定剤を更に含有する、請求項１ないし８の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１０】
上記ヌクレアーゼが１マイクロリットル当たり少なくとも０．１ユニットの酵素濃度で組成物中に存在している、請求項１ないし９の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１１】
上記ホスファターゼが１マイクロリットル当たり少なくとも０．１ユニットの酵素濃度で組成物中に存在している、請求項１ないし１０の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１２】
ＰＣＲ増幅反応の産物に加えられたときに、残留プライマー及び残留ヌクレオチド三リン酸を効果的に分解し、効果的なＤＮＡシークエンシングを可能にする、請求項１ないし１１の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１３】
該組成物を４℃で２４時間保存する場合、上記ホスファターゼがその機能活性の少なくとも５０％を保持する、請求項１ないし１２の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１４】
５０：１未満のヌクレアーゼ：ホスファターゼユニット比を有する、請求項１ないし１３の何れか１項に記載の組成物。
【請求項１５】
物質試料中に存在する予め選択された核酸を分解する方法であって、ヌクレアーゼとホスファターゼを含有する組成物に上記試料を接触させる工程を含み、上記ヌクレアーゼが上記物質試料中に存在する上記予め選択された核酸の少なくとも一部を分解し、上記ヌクレアーゼが組成物１マイクロリットル当たり少なくとも０．０１ユニットのヌクレアーゼ濃度で該組成物中に存在し、上記ホスファターゼが、該組成物を－２０℃で２４時間保存したときにその機能活性の少なくとも５０％を保持する、方法。
【請求項１６】
上記物質試料中に存在する上記予め選択された核酸が、核酸合成反応の産物中に存在する残留物質であり、上記ヌクレアーゼと上記ホスファターゼを含有する上記組成物と上記合成反応産物を接触させる工程を含む、請求項１５に記載の方法。
【請求項１７】
上記組成物には、増幅されたデオキシリボ核酸が実質的に含まれない請求項１５又は１６に記載の方法。
【請求項１８】
上記組成物が有効量のエビアルカリホスファターゼを含有する、請求項１５ないし１７の何れか１項に記載の方法。
【請求項１９】
上記組成物が有効量のエキソヌクレアーゼＩを含有する、請求項１５ないし１８の何れか１項に記載の方法。
【請求項２０】
上記ホスファターゼが、組成物１マイクロリットル当たり少なくとも０．１ユニットの酵素濃度で組成物中に存在している、請求項１５ないし１９の何れか１項に記載の方法。
【請求項２１】
上記試料がＤＮＡ増幅反応の産物であり、上記ヌクレアーゼが残留プライマーを効果的に分解し、上記ホスファターゼが上記試料中に存在する残留ヌクレオチド三リン酸を効果的に分解する、請求項１５ないし２０の何れか１項に記載の方法。
【請求項２２】
上記接触工程に続いて、上記合成反応産物について一塩基変異多型解析を実施する工程を更に含む、請求項１６ないし２１の何れか１項に記載の方法。